



# ルルドの聖母マリア像

夜明けが待ち遠しい。ルルドのホテルに着いたのは夜十時。寝たのは午前零時を回っていたが、朝五時前には目が覚めた。

早く聖母マリアがベルナデッタに出現した、あの洞くつに行きたい。でも外は真っ暗である。

我儘で勝手に妻を起こし、午前六時にホテルを出た。街灯を頼りに歩いて行くと「グロ

巡礼の道  
7

藤屋侃士  
(下松市幸ヶ丘)

てたドメザイン神父が妻の誕生日が二月十一日だと知ってつけた洗礼名である。

「洞くつ」の文字に矢印のある看板があった。七分ぐらい歩いたであろるか、見覚えのある大聖堂前の広場の入り口が見えた。このルルドには私たちのいろいろな思い入れがある。実は三十二年前の昭和四十九年に一度ここに来たことがある。妻の洗礼名は「マリア・ルルド」。焼失前のサビエル記念聖堂を建

## 聖母マリアが出現したマツサビエルの洞くつ



じるのである。神を見たら人はだれもない。神はいないというの。一つの信仰で、私は神はいないという信仰を持っている。奇跡について。あるマツサビエルの洞くつに着いた。洞くつの右上のくぼみの聖母マリアが現れた所に、今は大理石でできた聖母マリア像がある。三十二年前は全く気がつかなかったが、今回ここにベルナデッタの像がないのに気づいた。なぜだろう。ベンチに座り、祈っているとひらめいた。「私が訪れる人がベルナデッタなのだ」ということ。イエスキリストが奇跡を行われたのも奇跡は結果に過ぎず、そのことを通して「神の

九回目の出現の時、洞くつの中を掘ると泉がわき出て、その水を飲むと病気が治るなど数々の奇跡が起き、たくさんの巡礼者が訪れるようになった。もちろん「そんな馬鹿な」と否定する人も多く、ベルナデッタは司祭、警察署長、判事、医者などから尋問される。しかし、病人治癒の奇跡が続き、カトリック教会として、ベルナデッタのマリア出現を信じている。妻が自分の洗礼名であるルルドに行きたいと願ったことはいまでもない。ルルドにまつわる我が家の不思議な話はあとで触れるとして、とにかく私もルルドのマリア出現を信じている。「あなたの信仰が、あなたを救った。(マルコ福音書十章の五十二節)」さて、広場に入り、暗闇の中に薄っすら見えるルルド大聖堂を左手に進むと、大きな口ウソクの明かりに照らされ、聖母マリア像の

「現存」を伝えたかったのではないだろうか。聖母マリアは、ベルナデッタに聖堂を建てるようにと言われ、今、立派な聖堂が建っている。そこで起こる数々の奇跡も、神の現存の証しであり、そこを訪れる一人々々に今も神の証し人になるよ



ルルド大聖堂